

# 渥美半島の文化財



田原市

## 四 渡辺華山

学者として、画家として、また政治家として活躍した渡辺華山は、寛政5年(1793)江戸の田原藩上屋敷(現・最高裁判所)で生まれました。8歳から藩に仕え、鷹見星草や佐藤一斎、松崎樵堂らに学び、朱子学や陽明学をきわめました。幼少の頃から画にも親しみ、すぐれたデッサン力をもとに、独特の描線と西洋画の遠近法などをとり入れ、多くの名作を世に送りだしました。40歳で藩の家老職に就いてからは、田原藩の政務に貢献。義倉「報民倉」を設け、天保の飢饉のときに1人も餓死者をださなかったことは有名です。また一方では、高野長英らと西洋事情を研究し、鎖国の非を「慎機論」で記しましたが、幕政批判とされ田原で蟄居を命じられました。藩に災いが及ぶのを恐れ49歳で自刃しました。田原市で所蔵する関係資料の一部が国の重要文化財に指定されています。



渡辺華山像(部分) 橋 樵山筆



一掃百態図 渡辺華山筆



## 田原市博物館

田原城・二ノ丸跡に建設された「田原市博物館」。渡辺華山、田原藩をはじめとする市の歴史資料が多数展示され、田原市の歴史を紹介するシンボルとなっています。隣接して田原市民俗資料館(入館無料)もあります。

## 田原城跡

田原城は文明12年(1480)頃、戸田宗光によって築城。当時は城域が海に囲まれ、その湾の形から「巴江城」とも呼ばれていました。現在は石垣、堀、土塁などが残

## 神明社古墳

境内の東に稲荷社があり、その奥に古墳の石室入口があります。径約15mの円墳で、横穴式石室は規模が大きく保存も良好で、石室内には2組の石棺がおかれていました。大刀・馬具・須恵器等が出土しています。また、棺のそばから金銅装・銀装人刀の金具が出土し、6世紀後半に築かれた有力者の古墳と考えられます。



## 田原まつり会館

田原市の主な祭りを大型スクリーンや展示パネルなどで紹介しています。特に田原まつりに曳かれる山車(市指定有形民俗文化財)が常設展示され、祭りの勇壮な雰囲気に触れることができます。



- 開館時間/午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日/毎週月曜日  
(祝日の場合はその翌日)  
年末年始(12月28日～1月4日)
- 観覧料/無料
- TEL(0531) 22-7337

## 田原祭(山車とからくり人形)

「からくり人形」を乗せた山車で広く知られている「田原まつり」。毎年9月中旬の3日間にわたり開催されます。子どもが手踊りを舞う夜山車や打ち上げ・手筒・仕掛け花火なども披露されます。



- 開館時間  
午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日  
毎週月曜日  
(祝日の場合はその翌日)  
年末年始(12月28日～1月4日)
- 観覧料  
一般 210円  
小・中学生 100円  
※特別展、企画展の時の料金  
については別に定めます。
- TEL(0531) 22-1720
- http://www.taharamuseum.gr.jp

**吉胡貝塚** 地図 J-2  
吉胡貝塚史跡公園

縄文時代の後期・晩期を中心とした日本を代表する貝塚遺跡で、貝層は4500m<sup>2</sup>にも及ぶ。大正11・12年の京都大学の清野謙次、昭和26年の文化財保護委員会の発掘調査で340体を超える縄文人骨のほか、縄文土器・石器・骨角器・動物遺体等、多数の遺物が出土し、考古学・人類学の研究に大いに貢献しました。



**吉胡貝塚資料館**(シェルマ吉胡)  
●開館時間  
午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)  
●休館日  
毎週月曜日  
(祝日の場合はその翌日)  
年末年始(12月28日～1月4日)  
●観覧料  
一般 200円  
小・中学生 100円  
※田原市博物館との  
共通券(一般300円/小・中学生150円)  
●TEL (0531) 22-8060  
●http://www.yoshigo.gr.jp



**長仙寺** 地図 K-4

護摩堂、山門並びに二王像があります。徳川家康の本陣跡であり、徳川家康・今川義元の古文書も保存されています。また、3月の第2日曜日に「おたがまつり」が行われ、厄除開運を願う「玉取祭」、初物の植木市としても知られています。



**藤七原湿地植物群落** 地図 I-2  
**黒河湿地植物群落** 地図 H-4

藤七原湿地植物群落は、シデコブシの群生地として、東海地方最大級の規模を誇っています。また、黒河湿地植物群落はシデコブシやヤチヤナギ、シラタマホシクサなどの貴重な植物が数多く群生しています。湿地には、ハッコウトンボ、トウキョウサンショウウオなども生息しています。



黒河湿地植物群落

**長興寺** 地図 H-3

田原城を築いた戸田氏の菩提寺。長く、屈曲した参道と回廊を備えた伽藍配置は、落ち着いた雰囲気を出しています。藤原期製作の県指定文化財・木造観世音立像(通称:鈍彫観音)があります。

**籠池古墳** 地図 H-3

墳丘は良く残っており、径20mほどの円墳で、横穴式石室の天井は一部失われていますが、渥美半島では屈指の規模です。石室内には組合式石棺が設けられています。発掘調査では須恵器などが出土しています。6世紀後半頃の有力豪族層のものです。



**山崎遺跡** 地図 G-3

芦ヶ池東北部の池底にあって、向山古墳群を築いた人々が生活していたところです。発掘調査で大量の須恵器・土師器・木器が出土しました。木器には、建築材・農耕具・生活用具・祭祀具、弓や馬具などの武具もみられます。古墳時代から奈良時代にかけての遺跡で、渥美半島で最も繁栄した場であったと思われます。



**厳王寺山門** 地図 G-5

寺は明応9年(1500)に開かれた田原城主戸田氏ゆかりの寺です。江戸時代中期に建立された山門は、薬医門と呼ばれる様式です。当市に現存する古い木造建築の一つで、屋根に葺れた鬼瓦には宝永3年(1706)の刻印が見られます。

**鬼墮古墳群** 地図 F-4

猿田池の南東に2基あり、そのうちの2号墳が発掘調査され、須恵器、鉄鏃、馬具が出土しました。7世紀頃に築かれたものです。現在は伊良湖旅客ターミナルの東隅に移築復元されています。



**光岩(鏡肌の岩)** 地図 F-4

光岩は、赤羽根西山標高約120mの北側斜面に位置し、断面は高さ9m、幅22m、岩体は中生代に形成されたチャートです。断層運動の熱によって生じる、光沢を帯びた断面は鏡肌と呼ばれ、この光岩は保存状況もよく、日本でも第一級の規模のものです。



指定文化財一覧

## 文化財めぐりのエチケット

文化財は私たちの祖先がつくりあげてきた貴重な歴史的遺産であり、国民共有の財産です。次のことに心がけて、気持ち良く文化財めぐりをお楽しみください。

- 有形文化財に許可なく手を触れたり、動かしたりしない。落書きなど絶対しない。
- 記念物に指定されている植物・動物・地質鉱物を持ち出さない。
- 建物内の文化財等の写真撮影は決して無断で行わない。
- 文化財のある場所での火気使用は絶対にしない。



### ■お車をご利用の場合



### ■公共交通機関をご利用の場合



## 田原市教育委員会

愛知県田原市田原町南番場30-1/〒441-3492  
TEL (0531) 23-3635 FAX (0531) 22-3811  
<http://www.city.tahara.aichi.jp/section/kyoiku/>

っており、桜門と二ノ丸櫓が復元され公園として整備されています。



## 市 渡辺華山 池ノ原幽居跡

渡辺華山が無実の罪により蟄居を命じられ、晩年を過ごし自ら果てた屋敷跡。静かな公園内に華山の幽居跡や銅像、オブジェがあり、ベンチ、東屋、散策路も整備されています。併設された田原市池ノ原会館では、落ち着いた雰囲気の中で、茶席が楽しめます。



## 市 霊巖寺

寛文4年(1664)から明治維新まで、田原藩を治めていた城主・三宅家の菩提寺。田原に移封される前は、拳母城主であった三宅氏が西加茂郡梅ヶ坪村で再興し、移封にあたって、この霊巖寺も田原に移しました。



## 市 凧まつり

端午の節句に子どもの立身出世を願い初風をあげたのがはじまりとされる「凧まつり」。毎年5月の第4土曜日・日曜日に開催されます。「けんか風合戦」では、凧糸にガラスの粉を付けて鮮やかな糸さばきで互いの凧糸を切りあいます。



## 市 龍泉寺

田原藩の藩医で渡辺華山と共に蘭学・兵学の研究に尽力した鈴木春山とその母、真宗の篤信者園の墓があります。また、山門の脇には松尾芭蕉の「寿久三行や馬上尔氷る影本うし」の句碑があります。芭蕉は、貞享4年(1687)に渥美半島を訪れています。



## 市 城宝寺

渡辺華山の菩提寺で有名な城宝寺。本堂奥の華山霊牌堂には、日本有数の画家・書家による作品で天井が飾られています。境内には華山の句碑「見よや春大地も亭す地虫さへ」が建てられています。また、山門わきにある城宝寺古墳は、6世紀のもの。横穴式石室は渥美半島最大規模のものです。



国 どう どう すえ き かま あと  
百々陶器窯跡—地図 J-4

窯業の研究が進んでいなかった指定当時は、奈良時代の窯跡とされていましたが、他と同様に中世の窯跡です。我が国の窯業史を考えるうえでも重要な史跡として有名です。台地の南斜面にトンネル状に構築された窯が、一部天井を遺して2基並んで残っています。甕、壺、鉢、山茶碗が焼かれていました。



市 にいのみ こふん  
新美古墳—地図 I-4

汐川に面した台地上に造られた、横穴式石室を持つ、推定直径約20mの円墳です。発掘調査では須恵器、鉄製品、耳環が見つかっています。6世紀後半に築造された、渥美半島を代表する首長墳のひとつです。



そう さく こ よう せき ぐん  
惣作古窯跡群—地図 I-4

12~13世紀に築かれた、主に碗・皿類を焼いた21基の窯が確認されています。そのうち10号窯からは、ざれ歌が刻まれた碗が出土しました。碗の外面上には、植物と

「やもめなど なかもふ恵 こつびには  
そつとあわせよ さで うるふやも」

「やらうかつびはうつつぞ にはかには  
こつびはいかが うせなん うせなん」

と書かれており、男女の赤裸々な情愛が歌われ、全国的にも珍しいものです。



つぼ さわ こ よう せき ぐん  
坪沢古窯跡群—地図 I-3

かつて産地不明の幻の「黒い壺」と呼ばれた蓮弁文壺が焼かれたとして、渥美窯の名を全国に知らしめた窯跡です。渥美窯成立の時期から終末期まで続いた渥美半島最大の窯跡群です。うち5基が発掘され、大甕・長頸壺・短頸壺・広口壺・山茶碗など種類・量共に多くのものが出ました。



むかいやま こふん ぐん  
上山古墳群—地図 G-4

芦ヶ池東南の小山には、山頂・山麓にかけて22基もの6世紀~7世紀の古墳が造営されています。そのうち15基が調査され、須恵器・大刀・刀子・鉄鎌・鉄斧・鉄鎌・馬具・玉類・耳環が出土しました。



あし じん じや  
阿志神社—地図 G-3

延喜式式内社で『文徳実録』の仁寿元年(851)の記録に初めて登場します。その後、田原城主・三宅康勝が寛文10年(1670)これを再興し、現在の地に移しました。



おお こ よう  
大アラコ古窯跡—地図 G-4

平安時代末期、当時の三河国司・藤原顕長の銘入り壺が焼かれた窯跡。ここで焼かれた製品には、奥州平泉の藤原氏のもとまで運ばれたものもあります。渥美半島の窯業の繁栄を示す貴重な窯跡です。



だい にち に よう い ざ せう  
大日如来坐像—地図 H-5

12世紀の後半に製作されたもので、漁師の網にかかったと伝えられています。木造で一部が破損して江戸時代に修理が行われています。渥美半島の同時期の仏像の中で、都的な作風を示すものとして貴重です。12年に一度(申の年)の大祭に開帳されます。

